

高次脳機能障害者支援における医科歯科連携の実態に関する研究

研究分担者 白山 靖彦 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 教授

【目的】本研究では、高次脳機能障害支援拠点機関(以下「拠点機関」)と歯科医療機関、歯科医療機関と他の医療機関との連携実態を明らかにするために2つの調査を実施した。【対象・方法】対象は、全国69の拠点機関と徳島県歯科医師会加入の歯科医療機関424カ所である。調査期間は各々2013年2-3月と2013年9月であった。まず拠点機関に対し、拠点機関の形態、支援コーディネーターの人数、歯科医療機関との連携の有無および歯科医療機関からの相談件数などに関してアンケート記入を郵送にて求めた。次に歯科医療機関に対し、歯科医療機関の形態、従業者数、高次脳機能障害の認知度、診察の有無、医科の連携実績などに関してアンケート記入を郵送にて求めた。統計的処理にはIBM SPSS Statistics ver21.0を用いた。なお、本研究は徳島大学病院倫理審査委員会の承認を得て実施した。【結果】回収率は拠点機関が63.8%、歯科医療機関が20.6%であった。拠点機関の形態は病院が、経営母体は社会福祉法人がもっとも多かった。支援コーディネーターの平均人数は2.4(±2.5)人であった。歯科医療機関の形態は歯科医院が大半を占め、平均従業者数は6.6(±3.5)人であった。連携率を(相談件数または連携実績)/(相談件数または回答数)(%)とした場合、拠点機関が9.1%、歯科医療機関が10.3%であった。また、過去に連携したことのある歯科医療機関は、高次脳機能障害の認知度、診察歴有りの比率が有意に高かった。【考察】脳損傷と同時に顔面や口腔を損傷した高次脳機能障害者を支援するためには、今後医科歯科の連携をより緊密にしていくことが重要である。

A．研究目的

本研究では、高次脳機能障害支援拠点機関(以下「拠点機関」)と歯科医療機関、歯科医療機関と他の医療機関との連携実態を明らかにするために2つの調査を実施した。

B．研究方法

対象は、全国69の拠点機関と徳島県歯科医師会加入の歯科医療機関424カ所である。調査期間は各々2013年2-3月と2013年9月であった。まず拠点機関に対し、拠点機関の形態、支援コーディネーターの人数、歯科医療機関との連携の有無および歯科医療機関からの相談件数などに関してアンケート記入を郵送にて求めた。次に歯科医療機関に対し、歯科医療機関の形態、従業者数、高次脳機能障害の認知

度、診察の有無、医科の連携実績などに関してアンケート記入を郵送にて求めた。統計的処理にはIBM SPSS Statistics ver21.0を用いた。なお、本研究は徳島大学病院倫理審査委員会の承認を得て実施した。

C．研究結果

回収率は拠点機関が63.8%、歯科医療機関が20.6%であった。拠点機関の形態は病院が、経営母体は社会福祉法人がもっとも多かった。支援コーディネーターの平均人数は2.4(±2.5)人であった。歯科医療機関の形態は歯科医院が大半を占め、平均従業者数は6.6(±3.5)人であった。連携率を(相談件数または連携実績)/(相談件数または回答数)(%)とした場合、

拠点機関が 10.0% ,歯科医療機関が 10.3%であった。
 また、過去に連携したことのある歯科医療機関は、
 高次脳機能障害の認知度、診察歴有りの比率が有意
 に高かった。詳細は、以下のとおり。

高次脳機能障害者支援における 医科歯科連携の実態に関する研究



徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究
 地域医療福祉学分野 白山 靖彦

Faculty of Dentistry
 THE UNIVERSITY OF TOKUSHIMA

研究の目的

- ① 高次脳機能障害支援拠点機関(以下「支援拠点機関」)は、歯科医療機関との程度「連携」しているのか？
- ② 歯科医療機関は、支援拠点機関などの医療機関との程度「連携」しているのか？



Faculty of Dentistry
 THE UNIVERSITY OF TOKUSHIMA

医科歯科連携の実態解明に関する2つの調査 対象と方法

[対象と方法]

- ① 全国の高次脳機能障害支援拠点機関69カ所(2013年2-3月)
- ② 徳島県歯科医師会加入の歯科医療機関424カ所(2013年9月)

以上の場所にアンケート調査を送付し、回収した結果についてIBM SPSS Statistics 21.0を用いて 統計的解析(主にχ2検定)を行った。なお、本研究は徳島大学病院倫理審査委員会の承認を得て実施した。

Faculty of Dentistry
 THE UNIVERSITY OF TOKUSHIMA

結果 ①

回収率 44/69=63.8%
 支援コーディネーター平均人員 2.38(±2.46)人

(連携率)=連携実績数 / 支援拠点機関の回答総数

歯科医療機関との連携あり→④/44= 9.1%

直接2件
 間接2件

Faculty of Dentistry
 THE UNIVERSITY OF TOKUSHIMA

結果②

回収率 87/424 =20.6%
 病院内歯科 2 歯科医院 85
 平均スタッフ数 6.64(±3.54)人

(連携率)=連携実績 / 歯科医療機関の回答総数

	No	Yes
高次脳機能障害の認知	33.3%	66.7%
診察歴	75.9%	24.1%
連携の実績	89.7%	10.3%

9/87

Faculty of Dentistry
 THE UNIVERSITY OF TOKUSHIMA

連携実績と認知度、診察歴との関連

連携実績	認知度		合計
	No	Yes	
No	29	49	78
Yes	26.0	62.0	78.0
	2.2	-2.2	9
	0.0	9.0	9.0
	-2.2	2.2	29
	29	69	87
	29.0	69.0	87.0

χ²=5.019, df=1, p=0.025

*連携実績のある歯科医療機関は、すでに高次脳機能障害について認知している。

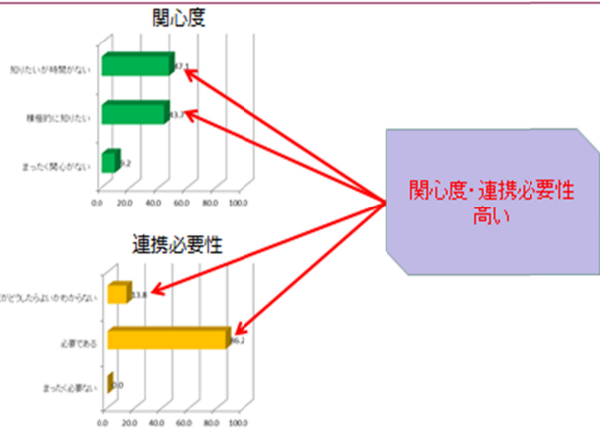
連携実績	診察歴		合計
	No	Yes	
No	66	12	78
Yes	69.2	18.8	78.0
	6.8	-6.6	9
	0.0	9.0	9.0
	-6.8	2.2	29
	66	21	87
	66.0	21.0	87.0

χ²=31.542, df=1, p<0.000

*連携実績のある歯科医療機関は、すでに高次脳機能障害者の診察歴がある。

Faculty of Dentistry
 THE UNIVERSITY OF TOKUSHIMA

関心度と医科との連携必要性(総数として)



症状の経過(発症後から1年半まで) (医科用)

記入日 年 月 日 記入者名

障害の名称

- ・記憶障害
 - 覚えにくいことがある
 - 記憶が定まらない
 - その他 ()
- ・注意障害
 - ぼーっとしている
 - 集中力がない
 - その他 ()
- ・実行機能障害
 - 物事を計画して実行することができない
 - 片付けや仕事などを効率的に行えない
 - その他 ()
- ・社会的行動障害
 - 単独や旅行がある
 - ひとつの物事にこだわる
 - 気存心の強い
 - その他 ()

・その他 (治療に関することなど)

身体的にはよく精神的に困れやすい

障害があることを理解できない

その他 ()

身体機能 非痛 痛 無

てんかん 痛 無

失音症 痛 無

その他 ()

移動手段 独自歩行 杖歩行 車椅子自立・介助 その他 ()

寝食障害 睡眠 痛 無

食事の形態 ()

内服薬

※禁忌薬

考察・まとめ

高次脳機能障害における医科歯科連携をより進展させるには、歯科医療機関に対して高次脳機能障害の認知度を上げ、診察数を増加させることが有用である。

共有できる支援ツールが必要



口腔内所見 (歯科用)

<歯式>

8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8

口腔診査表 (歯科用)

記入年月日	年	月	日
記入歯科医師名			
口腔内の清掃状態	良	普通	不良
歯石	なし	あり	
口臭	なし	あり	
歯肉の炎症	なし	あり(軽微)	あり(重症)
齦瘻	なし	あり(良好)	普通・不良
欠損歯	なし	あり	
粘膜の状態	()		
顎関節の異常	()		
摂食機能 嚥下機能	良	普通	不良
歯病名	()		
	診療経過など		
特記事項			

成果物：こうじのーと

こうじのーと

高次脳機能障害医科歯科連携/バス(こうじのーと)について

徳島大学

脳出血などの脳の病気や、交通事故などによる脳外傷、溺水などによる長時間の呼吸停止の後に、記憶力・注意力・計画性などの能力の低下、感情をうまくコントロールすることが出来ない、意欲がわかないなどの問題が起きることがあり、これらを高次脳機能障害といえます。

見た目には障害がないようにみえることもあるため「見えない障害」とも言われ、周囲の理解が薄く、い状況がよく起こります。

このノートは、高次脳機能障害のある方が病院、歯科医院などを円滑に受診していただくことを目的としています。ご家族をはじめ、医療機関、社会福祉施設などの関係者、雇員の積極的なご記入をお願いします。

新たに支援を受ける際は、このバスを持参し、必要に応じて、医師または歯科医師などに見せて下さい。

4 ページの診断基準により、正しい診断を受け、適切な支援を受けることをお勧めします。なお、診断に関しては各地の支援拠点機関にご相談下さい。

関わっている人たち

機関名など	連絡先	担当者
学校・通所施設・職場など通っているところ		
利用している相談支援センターなど		
利用しているヘルパー・事業所など		
契約している短期入所・一泊支援事業所		
機関名など	連絡先	担当者

支援の記録 (相談支援事業所など社会福祉機関などが記載)

親戚・友人・知人			
行政機関			
その他			

D . 考察

脳損傷と同時に顔面や口腔を損傷した高次脳機能障害者を支援するためには、今後医科歯科の連携をより緊密にしていくことが重要である。

E . 結論

高次脳機能障害者の対する医科歯科連携をより高めるには、共有できるツールが必要である。なお、「こうじのーと」の有用性について、今後検討する予定である。

F . 健康危険情報

特になし

G . 研究発表

1 . 論文発表

1)白山靖彦：クラウドコンピューティングを活用した口腔保健業務支援システムの有用性に関する検討，総合リハ(41)6,569-572,2013

2.学会発表

1)白山靖彦，中島八十一：相談支援からみた高次脳機能障害の就労率に関する検討，第37回日本高次脳機能障害学会(島根)，2013

2)白山靖彦：高次脳機能障害者支援に対する医科歯科連携の実態に関する研究，第37回日本高次脳機能障害学会(島根)，2013

3)伊賀上舞，白山靖彦：急性期医療機関に対する高次脳機能障害支援拠点機関の啓発に関する検討，第37回日本高次脳機能障害学会(島根)，2013